

製品名: サイクリン B1(1A5)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM09585**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:200, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNB1
別名	CCNB1
遺伝子 ID	891.0
SwissProt ID	P14635
免疫原	サイクリン B1 の合成ペプチド（アミノ酸範囲 60~140）

背景

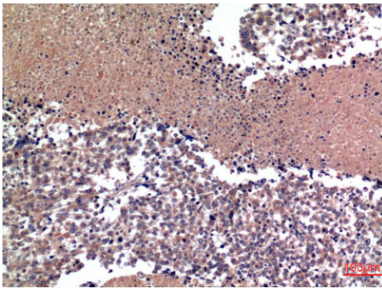
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、有糸分裂に関与する調節タンパク質です。この遺伝子産物は p34(cdc2) と複合体を形成し、成熟促進因子 (MPF) を形成します。恒常的に発現する転写産物と、主に G2/M 期に発現する細胞周期制御転写産物の 2 つの

代替転写産物が発見されています。これらの異なる転写産物は、異なる転写開始部位の利用によって生じます。[RefSeq 提供、2008年7月],発生段階: G2期に着実に蓄積し、有糸分裂時に突然破壊されます。機能: G2/M (有糸分裂) 移行期における細胞周期の制御に必須です。PTM: 間期に SCF(NIPA)複合体によってユビキチン化され、破壊されます。G2/M期にはユビキチン化されません。類似性: サイクリンファミリーに属する。類似性: サイクリンファミリーに属する。サイクリン AB サブファミリー。サブユニット: CDC2 タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体 (成熟促進因子 (MPF) としても知られる) を形成する。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。HEI10 に結合する。有糸分裂中に触媒活性を持つ RALBP1 および CDC2 と相互作用し、間期にエンドサイトーシス複合体を形成する。、

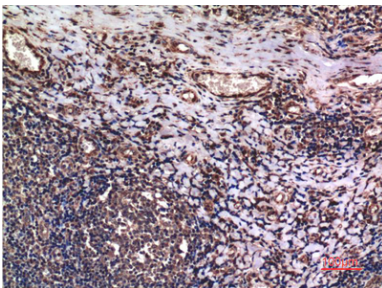
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

画像データ



1:200 に希釈したサイクリン B1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈したサイクリン B1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。